



組合があることで、スムーズに島暮らしがスタートできました



働いてよし！暮らしてよし！の対馬を作りたい

# 動き始めた新しい働き方

## ～対馬づくり事業協同組合～

昨年2月、対馬で誕生した協同組合。その名も、対馬づくり事業協同組合。「働くこと」「働いてもらうこと」を通じて、対馬で暮らしていく人々を支え、対馬が抱える課題を解決しようと、国の制度を使い、行政と地域の人たちがタッグを組んで発足しました。今回の特集では、この取り組みがどのようなものなのか、また、働き方で対馬の未来を考えていこうと関わる人たちを紹介します。

この畑で、一緒に対馬の新しい魅力を作っていきたい

## 「自然と共に」「自然に合わせ」生きてきた対馬の人々

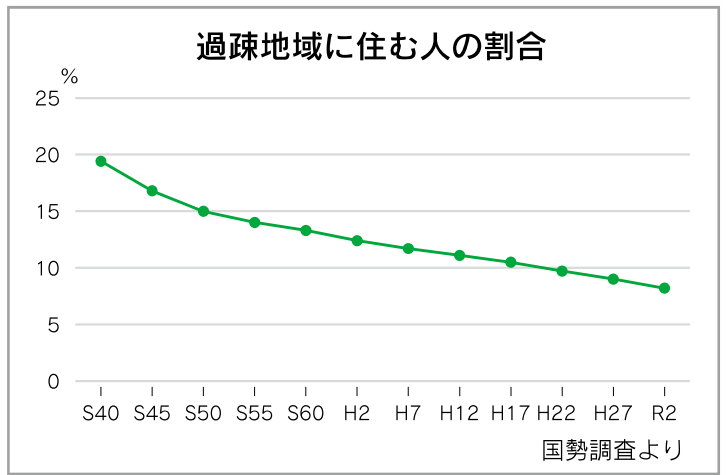


海や山、季節に合わせ働く場所を変えた(写真:教育委員会提供)

対馬に住むほとんどの人たちが、当たり前のように、海の仕事も山の仕事もこなしていたことをご存じですか？対馬の自然は、豊かな恵みをもたらしてくれる一方、季節や天候によって人を寄せ付けない厳しさを持っています。海で魚を獲りながら、山に入って木を育て、限られた土地で作物を育てて生きる。自然の厳しさを受け入れ、それに合わせながら先人たちは対馬で暮らしてきました。

## 日本中が抱える「担い手不足」

人口減少や都市部への人口集中などによって、地方に「人がいなくなる」ことが日本全体の課題となっています。人がいなくなることで、その地域の産業や社会活動を担う人たちが不足し、地域社会を維持することができなくなる「過疎化」という問題が各地で起こっています。令和4年4月1日現在で、全国1,718市町村のうち、過疎市町村の数は885で、51%に当たります。国土の6割が過疎地となっている現在、国を挙げて、過疎地域で暮らす人を増やしていく取り組みを行っています。



日本に住む9割以上の人々が、過疎ではない地域に住んでいる

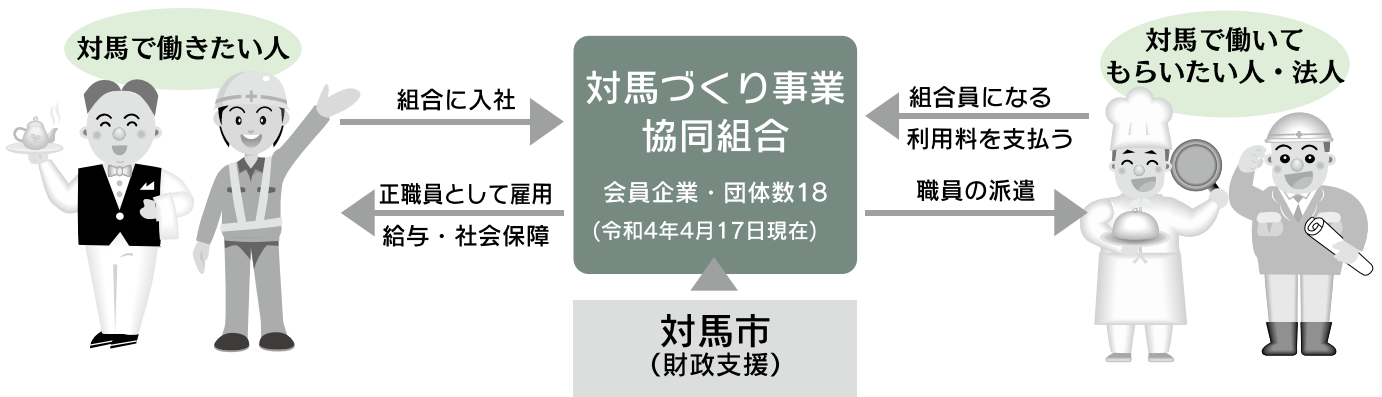
## 田舎（過疎地）には働く場所がない？

過疎地に人を増やそうとするとき、大きな壁となるのが「働く場所」の確保です。対馬でも、働く場所がないからと、島外に出る人が多くいます。それと同時に、働く人を募集しても集まらない人手不足や、跡継ぎがいいため、業績が好調であっても事業を畳む人も増えているなどの問題も起こっています。また、島外から移住を考えている人たちにとって、その人に合った仕事を見つける手助けをすることも課題になっています。



## 働きたい人と働いてほしい場所をつなげる

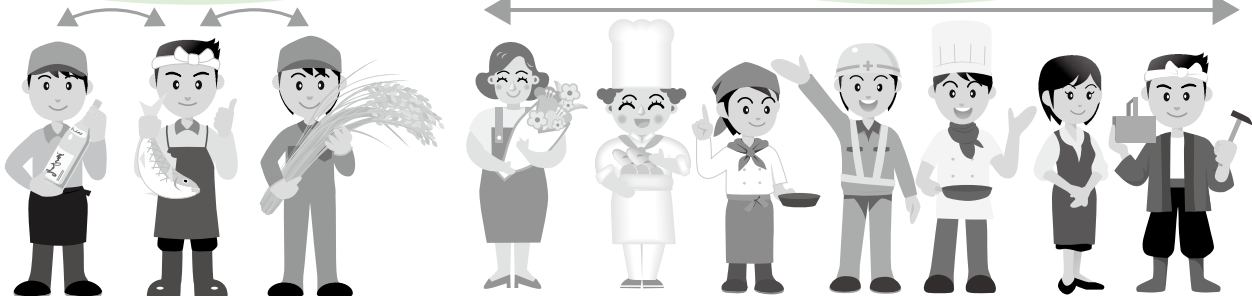
過疎地域に人を呼び込み、地域づくりを担ってもらうことで地域を元気にしようと、国は、その地域で働き手を確保するため「特定地域づくり事業協同組合制度」を作り、令和2年度からスタートさせました。この組合は、Uターン者などを職員として雇用し、組合に参画する事業所に対し、人手が必要な期間や時間に職員を派遣します。その制度を利用して誕生したのが「対馬づくり事業協同組合」です。



季節ごとに忙しい業種を組み合わせ  
て 通年働くマルチワーク型

働き方の  
イメージ

色々な仕事を体験して自分に合った  
企業を見つけるインターンシップ型





## 働き手として



組合職員として働く  
杉本 賢史 さん

### 組合職員の先輩として

様々な職場や職種を組み合わせることで、派遣先の人たちとコミュニケーションを取ることが大切だと思います。組合職員として働くことを通じて、対馬のことを知る機会になっています。

### 田舎暮らしがしくて対馬に移住

昨年8月に山口県から家族4人で移住してきました。都会よりも田舎に住みたいという思いがあり、なおかつ趣味の魚釣りができるところが良いと考えていたところ、対馬を訪れた時にこの組合のことを知りました。条件面の魅力があり、市の子育て支援も充実していたので、対馬へのIターンを決意し、組合職員として9月から夫婦2人で働いています。現在は、私が水産加工の会社で、妻が飲食店で働いています。

### 「やってやれないことはない」の気持ちで

これまで経験したことのない職種だったので不安はありましたが、職場の方々に教えていただきながら働いています。水産加工業という島とつながりが強い仕事でもあるので、働きながら地域の雰囲気を感じられるのも良い点です。縁もゆかりもない対馬での暮らしは、わからないことばかりなので、このようなつながりはとてもありがたいと感じています。



働くことで地域の雰囲気を感じる

## 組合員（島内事業者）として

### 島の恵みを生かした農業を

組合員（島内事業者）として、切り出した木材の皮と魚の内臓で作った堆肥で作物を育てる循環型の農業を行っています。農業は、季節によって忙しい時期があるので、その時期に働き手を確保できればと思いこの組合に参加しました。派遣される職員には、除草作業や果樹の剪定などをやってもらいたいと思っています。

ゆくゆくは、この取り組みを地域に貢献できる産業に成長させていきたいと考えているので、この組合を通して、私と意思を共有してもらえ、若い人たちを育てていきたいという思いも持っています。

### 協同組合の代表として

対馬に移住者を呼び込むためには、移住を考えている人たちに見えるように、仕事や住むところがあると伝えなくてはなりません。そのために、この組合がやれることはたくさんあると思っています。

島内の事業者に対してもこの組合は、事業の拡大や、事業を承継する手段になるという可能性を持っています。働く側も、事業所側も多くの皆さんにこの組合のことを知ってもらい、活用していただければと思います。



観光農園として多くの家族連れで賑わうブルーベリー畑の草刈りなどを行ってもらおう予定



対馬づくり事業協同組合代表理事  
組合員（農業）長郷 泰二 さん

## 人の交流を通して、対馬を元気にしたい

対馬は、海や山といった自然をはじめ、色々なところで魅力にあふれた島ではあるのですが、その魅力を活かす人材が不足しています。私は数年前、旅行でたまたま訪れた対馬に、大きな可能性を感じ、1ターンで対馬に移住して、飲食店などを経営しています。私自身も人手不足に悩まされていて、組合員として、私も参加することにしました。現在は事務局として組合員や職員、行政との調整役を担っています。

私は、対馬に住む人を増やすためには、ただ住む場所を用意するだけでなく、働く場所も一緒に用意し、ここで暮らすことができるように準備しなくてはいけないと思っています。

全国の離島や過疎地が、同じような問題を抱え、解決に向け移住を呼びかけている中で、いかに対馬の特色を出して移住者に対馬をアピールし「移住」を「定住」にして働き手を増やしていくのかを、移住者の先輩としての目線も大切にしながら、日々模索しています。

またこの人材派遣業に、対馬に住む人が慣れていないというところもあるので、そのあたりのことも知ってもらう必要を感じています。

組合として、島の中や外に向け、時代に合わせた働き方を提案、実行できるようになれば、対馬はもっと輝くことができると考えています。



対馬づくり事業協同組合事務局長  
小林 久 さん

# 対馬づくり協同組合を活用して

## 対馬で働いてみませんか？

### 【雇用条件】

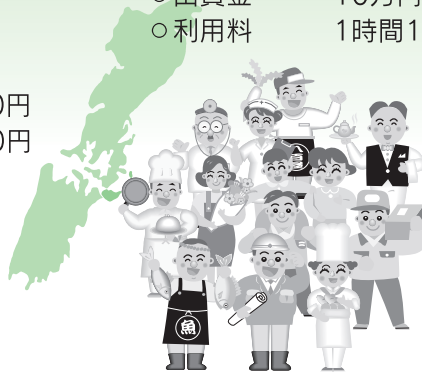
- 雇用形態 正社員
- 雇用期間 無期限
- 社会保険 完備  
(健康保険／厚生年金保険／雇用保険)
- 給与 マルチワーク型 初任給 190,000円  
インターンシップ型 初任給 180,000円
- 休暇 有給休暇 (労働基準法による)
- 夏季休暇 (6/1～10/31の間に3日)
- 年末年始休暇 (12/29～1/3)
- 賞与 組合の業績に応じて
- 交通費手当 距離に応じて支給

### 問い合わせ

対馬づくり事業協同組合 ☎0920(86)3822 Mail:info@tsushima-zukuri.com  
対馬市しまの力創生課 ☎0920(53)6111

## 人材確保しませんか？

- 組合員資格 市内に事業所を有する  
小規模事業者
- 出資金 10万円
- 利用料 1時間1,100円



対馬づくり事業  
協同組合HP

## 対馬は「マルチワーク」先進地

対馬の様々な企業で「マルチワーカー」として働く。天候や季節によって、海で魚を釣り、山で木を伐り、畑を耕してきた対馬の人たちにとって、複数の仕事に関わりながら自然と共生し生活を送る考えは、マルチワークという働き方そのものといっているのかもしれない。マルチワーク先進地対馬で、新しい働き方の模索が続いています。